

一月六日の中央省庁改革のスタートに当たり、沖縄及び北方対策担当大臣を拝命いたしました。私が総理時代に手掛けた一府十二省庁体制の発足時にこうして閣内にいることに、巡り合わせの不可思議さを感じずにはおられません。

沖縄を巡る諸課題の解決が、内閣の重要課題となる中で、これらの課題解決を推進する任を担うこととなり、その責任の重さを痛感しております。沖縄県民の方々のお心をしっかりと受け止め、仲村副大臣とともに、職務に当たる所存であります。

御承知のとおり、沖縄は、先の大戦で奇烈極まる地上戦が行われ、県土は焦土と化し、非常に多くの尊い生命が失われるとともに、その後も二十七年間にわたり米国の施政権下に置かれるなど、筆舌に尽くしがたい苦難の道を歩んでまいりました。

こうした中、沖縄が昭和四十七年五月に本土に復帰して以来、政府は三次にわたる振興開発計画を策定し、これに基づいて各般の施策を積極的に講じてきた結果、県民の皆様のためまざる御努力と相まって、社会資本の整備は大きく前進し、沖縄の経済社会は総体として着実に発展してまいりました。

しかしながら、沖縄は、今なお広大な米軍施設・区域が存在すると



行政改革担当大臣・  
沖縄及び北方対策担当大臣

はし もと りゅう た ろう  
橋 本 龍 太 郎

ともに、交通の円滑化、水の確保、街づくり、環境衛生など様々な分野で整備を要するものがみられ、さらには産業振興や雇用創出の問題など、今なお解決しなければならぬ多くの課題を抱えております。

この度の内閣府の発足に際しては、沖縄が抱える歴史的、地理的条件や米軍施設・区域の存在などの特殊事情にも留意しつつ、沖縄の新たな発展に向けての総合的な施策を推進することが国政上の重要課題であるとの認識のもと、沖縄対策の担当大臣を常設するとともに、これまでに内閣官房と沖縄開発庁に分かれて実施していた、沖縄対策に係る総合調整の機能と、振興開発計画の作成、実施等の機能等を、内閣府において一体的かつ強力に推進することとなりました。

また、現地の沖縄では、沖縄総合事務局をそのまま置くこととしましたが、従来にも増して総合的・一体的な業務運営を行うこととし、局内における総合調整機能の強化を図ることとしました。事務局職員が、この趣旨を十分に理解され、一層一体的な運営に努められ、着実に成果を挙げて沖縄県民の期待に沿えることとなるよう、私としても職員と共に誠心誠意努めてまいりたいと考えています。

沖縄は今、二十一世紀を迎えて新たな発展の基盤を築くべき極めて重要な節目の時期を迎えています。私としては、内閣府において充実強化された沖縄担当部局の機能を十全に発揮して、沖縄の特性を活かした振興開発の推進に全力で取り組む所存であります。

また、平成十三年度末で期限を迎える現行の第三次振興開発計画の後の振興施策の進め方については、二十一世紀の沖縄の自立的発展を図るための沖縄振興新法の在り方も含め、沖縄県とも連携しつつ、精力的に検討してまいれる所存であります。

さらに、沖縄県民の皆様への負担を軽減すべく、引き続きSACO最終報告の着実な実施に全力で取り組む決意であります。特に、普天間飛行場の移設・返還については、沖縄県及び地元地方公共団体との間の代替施設協議会を中心に、できるだけ早く成案を得るべく努力してまいれる所存であります。

これまで、沖縄のために御尽力された歴代の長官等多くの関係者の方々の熱意を受け継ぎ、新しい世紀を迎えた沖縄の一層の発展に向けて全力を傾注してまいれる決意を申し上げて、私の御挨拶いたします。

# 就任ご挨拶